

# マンガ「片町夜曲(セレナーデ)」 # 3 原作シナリオ

山崎浩治

## マンガ「片町夜曲(セレナーデ)」 #3 原作シナリオ

---

### #1 「スナック香澄」・看板(夜)

吉岡の声「ハイボールのウイスキー抜き、お替わり！」

### #2 同・店内

カウンター席に座っているスーツ姿の吉岡(30代)、カウンター内の美咲アヤカに空のグラスを突き出した。

アヤカ「(呆れて)ハイボールからウイスキー抜いたら、ただの炭酸水でしょ！」

アヤカのモノローグ(以下、M)「常連の吉岡さんはお役所勤めの公務員。お酒が飲めないのにスナック香澄に毎晩通っているのは、高校時代の同級生だった香澄ママにいまも片思いしているからです」

カウンターの中に立つ香澄ママ(30代)が色っぽく微笑んで、

香澄「このあいだみたいにハイボールのウイスキー抜きで酔いつぶれないでよ、吉岡くん」

その時、ドアが開き、客が入ってきた。

喪服に黒いベールの帽子を被った美鈴(20代)。

美鈴「(沈痛な表情でカウンター席に座り)お葬式を済ませてきたの……」

アヤカのM「美鈴さんは以前、香澄ママと同じ店で働いていました。香澄ママが独立してからはこうして時々、お店にやってくるんです」

香澄「(悲しげに)メール読んだわ。突然だったわね、美鈴ちゃん……」

香澄、美鈴の前に置いたグラスにビールを注ぐ。

吉岡「不幸が続くね、美鈴ちゃん。あんまり気を落とさずにな……」

アヤカ「(つられて)えっと、このたびはどうも……(とペコリ頭を下げる)」

美鈴、スマホを取り出し、アヤカに待ち受け画面を見る。

スーツ姿の達也(20代)と美鈴のツーショット写真。

美鈴「いい人だったの。達也と過ごした日々は美しい思い出……(さめざめと泣く)」

アヤカ「(言葉を失って)……」

吉岡「(アヤカに耳打ちし)美鈴ちゃんはほとんど毎日、同伴出勤っていうナンバーワンキャバ嬢なんだ。しかも同伴には必ず安い店を選んでくれるイイ子。だけど、男運の悪いのが玉にキズなんだよね」

美鈴、目の前のビールを一気に飲み干すと、立ち上がった。

美鈴「悲しんでばかりいても仕方ない。彼とのことは吹っ切らなきゃ」

スマホのツーショット写真を消去する美鈴。

美鈴「あたし、いまから店に出る！」

香澄「(微笑んで)頑張って、美鈴ちゃん」

颯爽と店を出て行く美鈴。

アヤカ「(見送って)彼のお葬式が終わったばかりなのに、すごいプロ意識！」

### #3 キャバクラ「レジェンド」

ボックス席で客の膝に手を置き、楽しそうに会話している美鈴。

### #4 「KOHRINBO109」前(別の日の昼)

人待ち顔で立っているアヤカ。

アヤカのM「それからしばらく経ったある日のことでした」

アヤカ「(笑顔で手を振り)シュン、ここよ！」

雑踏のなかをやってくるイケメン男、シュン。

アヤカのM「シュンは同じ大学の同級生。付き合ってもう半年になるの」

### #5 「金沢21世紀美術館」芝生の庭

歩いてくるアヤカとシュン。

アヤカ、広坂交差点の方から男と腕を組んでやってくる美鈴(私服)を見つける。

アヤカのM「美鈴さん……まだ喪も明けていないのに」

連れの男と屈託なく笑う美鈴。

シュン「(言いにくそうに)アヤカに話があるんだ」

アヤカ「(シュンの肩に甘えて)なになに、明日のデートの相談？」

シュン「オレたち、もう終わりにしないか。好きなコができたんだよ」

アヤカ「……えっ、えっ、え～～～っ」

オブジェに囲まれ、凍り付いているアヤカ。

アヤカのM「あたしの恋が、はかなく散った」

### #6 「スナック香澄」店内

ウイスキーのボトルを抱えて暴れるアヤカを吉岡が羽交い締めしている。

吉岡「だめだよアヤカちゃん！ 君はまだ未成年なんだから、お酒はダメ！」

アヤカ「とめないで、吉岡さん！ お酒を飲んで何もかも忘れたいの！」

香澄「(ぴしゃりと)アヤカちゃん、お酒は楽しく飲むものよ。お客さんに楽しんでもらうのが仕事のあなたがヤケ酒飲んでどうするの！」

アヤカ「(我に返って)……ごめんなさい、香澄ママ」

そこへ新しい客が入ってきた。

アヤカ「(客の顔を見て)……あっ」

インサート。

× ×

美鈴と一緒にツーショット写真に写っていた達也。

× ×

アヤカ「み、美鈴さんの亡くなった彼……」

達也「(呆気にとられ)オレが亡くなった？」

アヤカ「いや～～お化けが出たあ！(と失神)」

#### #7 キャバクラ「レジェンド」店内

客と楽しそうに騒ぐ美鈴。

アヤカのM「後で香澄ママと吉岡さんから聞きました。ホレっぽく、恋多き女的美鈴さんは恋愛と失恋を繰り返す`負の恋愛スパイラル女性、だったんです」

#### #8 「スナック香澄」店内(回想)

カウンター席で酔いつぶれている美鈴。

香澄「失恋するたび、お店休んでたらダメじゃない」

美鈴「(泣きながら)だって、彼との楽しかったことばかり思い出すんだもん。それがつらくて苦しくて……」

香澄「いっそ`恋のお葬式、をしたら、美鈴ちゃん」

美鈴「……えっ」

香澄「忘れないけど、忘れられない……。そんな彼への思いときちんと決別するの。少しでも前へ進むためにね」

#### #9 金沢の街並みを一望する丘の一角(回想)

「タカシの墓」「リョウタの墓」「ダイキの墓」など、ずらりと並んだ`恋の墓場、。

喪服と黒ベール姿の美鈴が小さな箱を土に埋めている。

アヤカのM「それから美鈴さんは失恋するたび、彼との写真や思い出の品を埋めてお葬式をするようになりました」

美鈴「達也、これまでありがとう。あたし、元気で生きていくわ。さよなら」

アヤカのM「あたしも美鈴さんのマネをすることにしました！」

#### #10 犀川河川敷(現在)

アヤカのM「犀川を`賽の河原、にして、恋のお葬式を挙げることにしたんです」

アヤカ、石を積んで墓を作っている。

墓の前に「シュンとの恋のお墓」と記された板が立っている。

アヤカ「(手を合わせ)三途の川を渡って成仏しろ、あたしの恋！」

アヤカのM「恋を失う痛みを知って、少し大人になったかな……美咲アヤカ19歳、初めての失恋」